

① 「合掌」について

本校は”人間形成を第一とする”学校です。その第一歩が朝と帰りの合掌・礼拝にあるといえます。

合掌は「仏に帰命する」という心が形に出たものですがその形がもつ意味について、いくつかのいわれがあります。

- ・右手の「み仏」と左手の「自分」が一体になる
- ・掌（てのひら）を合わせることで、無防備・無抵抗を表し、平和そのものの姿である
- ・心の中が一つの心で、二心がないこと（仏を疑う心がないこと）



<合掌・礼拝の仕方>

- (1) 指先をまっすぐのばし、掌を胸の前で合わせます（両手や指をはっきり合わせる。）
- (2) 両肘ははずらず指は自然に45度上に向けます
- (3) 「南無阿弥陀仏」と数回念仏を称えながら、合掌したまま上体を前に倒します

朝の礼拝 ⇒ 今日一日の学習への決意を新たにするとき。

真宗宗歌（メロディー）・・・起立し、心静かに姿勢を整える。

さんだんのうた（メロディー）・・・心静かに思索。

朝のひとこと

念仏（メロディー）・・・正しい合掌の姿勢。

校訓・・・代表のものが「校訓」と言い、全員で唱和。

朝の挨拶

帰りの礼拝・・・今日一日の反省のとき。

S H R

夕のうた（メロディー）・・・起立し、心静かに姿勢を整える。

念仏（メロディー）・・・正しい合掌の姿勢。

帰りの挨拶

② 「報恩感謝の日」

親鸞聖人は、1263年1月16日、90年のご生涯を終えて亡くなりました。毎月16日、特別な法要を勤めるならわしが、今も生きています。

親鸞聖人が、晩年にご自分の心境を次の和讃（詩）で表しています。

如来大悲の恩徳は 身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も 骨をくだきても謝すべし

この方のご生涯は、この和讃のとおり、報恩の誠によって貫かれたご一生でありました。そこにたどりつく道は、厳しいものでしたが、たどりえて新たに生き返った喜びは、計り知れないものでした。私達は、親鸞聖人の生き方を学んでいます。少なくとも報恩の実践を心がけなければなりません。

毎月16日、この日一日だけでも、報恩感謝を具現化するよう心掛けたいものです。（※みなさんから頂いた献金は「SDGs活動」の資金などに運用されます。）